

善徳

七三二一〇〇〇四

広島市南区宇品神田四一十一八

善徳寺

電話 〇八二一二五一六〇二九

卒業式の後なのでしよう。小さな花束を持った女学生が、笑顔で歩いていました。今年の卒業生は授業が思うようにできなかったり、修学旅行に行けなかったりで、本当に大変な年だったと思います。女学生の笑顔を見ながら、今年の事もいい思い出として話せるような、明るい未来を願いました。

他の方々、有力な兄弟子方もこぞって反論されました。聖人は譲らず、さらに「学識が同じというなら、もちろん違います。法然様の信心も私の信心も、如来さまからいただく信心ですから違はずがありませぬ」と主張されました。どちらも譲らないので、法然聖人にお聞きするこ

令和三年三月六日
絵伝の第七図、「信行両座」

まで解説しました。今号でその続きを解説します。

号 浄土真宗の信心の要ともなる部分です。

4 あるとき親鸞聖人が「法然聖人の信心と、私の信心は全く同じものだ」と主張されました。それに対して



第八図 信心 静論

とになりました。

すると法然聖人が、「他力の信心は阿弥陀様から恵まれる信心です。故に私の信心も、善信坊（親鸞聖人）の信心も変わりはありません。もし違ふのなら、私と同じお浄土にはいけないでしょう」とお諭しになりました。

第九図は親鸞聖人七〇才の時の出来事です。弟子の入西房が、親鸞聖人のご真影を描きたいと、絵師の定善に頼むことになりました。定善は、聖人の顔を二目見るなり驚いて、「昨晚の夢で、お坊様の顔を描くように言われ、お付きの方が、この方は善光寺の本願の御坊であると言われたので、生身の阿弥陀如来様と確信し、礼拝しました。聖人はまさに、夢の中のお坊様と同じお顔なのです。」と感激して語りました。

善光寺の本願の御坊とは勸進聖のことで、佛教を説き広めながら、全国を遍歴している僧侶のことです。

善光寺の勸進聖は、生身の阿弥陀様であるとの信仰がありました。それで、聖人を生身の阿弥陀様だと確信し、驚き感激したのです。



第九図 入西 鑑察

善徳寺行事案内

春季永代経法要

四月二十日(火) 昼席 夜席

二十一日(水) 朝席 昼席

講師 島根県六日市町

誓立寺 朋澤智弘 先生

尚、今後のコロナの感染状況により、中止、変更することがあります。

常朝時

毎日朝七時より八時まで

正信偈勤行と經典解説

現在、大峯頭先生著作

『永遠と今 浄土和讃を読む』を音読しています

春季彼岸会法要

三月十八日(木) 昼席一時より勤行

講師 中島町 善福寺 藤哲哉 先生

十七日(水) 午後一時より仏具のおみがきをします。

お手すきの方はお手伝い下さい

第十図は、承元の法難の場面です。

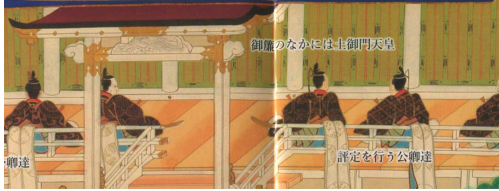
奈良興福寺と比叡山の僧侶たちが、法然聖人の説く専修念仏が盛んになるにつれ、聖道門がすたれてきたので朝廷に訴えました。

審議された結果、役人たちが取り締まったり、専修念仏停止を申し渡したりしている場面です。

第十一図は、取り締まりに先立ち、御所の土御門天皇の前で、公卿たちが審議している場面です。時の権力者、後鳥羽上皇の留守中に、後鳥羽上皇が寵愛していた二人の女官が、法然門下の住蓮房と安楽房の主催した法要に参加し、そのまま出家してしまったことが引き金になりました。



第十図 師資遷謫



第十一図

第十二図は法然聖人が流罪になり、

検非違使が張輿で迎えに来て、門弟や信者たちが別れを惜しんでいる場面です。法然聖人は、親鸞聖人に「しばしの別れである。今生で再会できなくても、お浄土でまた会おうではないか」と語られたと伝わっています。

その言葉のように、お二人はそのまま今生で再会することはできませんでした。



第十二図 師資遷謫

第十三図は、親鸞聖人が張輿に乗り流罪になった越後へ出発される場面です。悲しみの場面ですが、後に親鸞聖人は、「法然聖人がご流罪にならなければ、私も地方に行って、お念仏を地方の人々に伝えることもなかったでしょう」と語られました。

第十四図は、流罪が解かれた後、関東へ向かわれる場面と、稲田の草庵で、説法される場面です。

聖人が流罪の地から京都へ帰られず、関東に向かわれたわけは、法然聖人が既にご往生されていたからではないかと推測されています。

第四図の六角夢想で、聖人が見られた夢の中で、東の人々に説法されたが、まさにその夢が現実になったわけです。以下次号に続く

(てんぶるらいふ発行 親鸞聖人御絵伝) 参照 写真転載



第十四図 法興

敬 弔

お浄土に参られた方を、謹んでお知らせ致します

一月二十六日寂 安芸区 矢野 向谷 博文様 七十四才

二月六日寂 元宇品

藤原秀俊様 九十七才

二月十三日寂 神田五丁目 八十才

藤井勝代様 神田五丁目 九十一才

二月二十二日寂 中平多津子様 神田三丁目 九十七才

二月二十五日 田中貴幣子様 西二丁目 七十二歳

三月三日寂 今村 勉様

三月三日寂 今村 勉様

お知らせ

去年、樹心庵の花見は中止しましたが、今年も新型コロナウイルスの感染予防のため中止します



宗教法人 善徳寺

振込口座

もみじ銀行宇品支店(普)

008・0688834

寺報「善徳」年八回発行

護持会員には毎回配布

ホームページ「宇品善徳寺」